



6

ハ

石版ニ用ユヘキ石ヲ論

石版ニ用エル石ハ石灰炭酸ノ質アリ都テ諸酸ニ溶解シ
 能ク水液ヲ吸收シ又脂肪質ノモノヲ忌ニス其質堅クメ
 破烈スルトナキモノハ皆石版ニ用ヘキナリ最良石ノ徴
 候ハ即チ肌密ニメ石質堅ナク白色ニ少シ黄ヲ帯テ淡濃
 斑紋ナリ殆ント良好ノ磨石ノ如シ真珠ノ如キ灰白色ノ
 石ヲ最良トス此ノ如キ石ハ殊ニ堅クメ能器械ノ強磨ニ
 堪ルト久シク是ヲ以テ他石ニ比スレハ数牒ノ多キヲ得
 レモ猶磨減セサレハナリ

石盤ヲ研スル法


 洋学文庫
 文庫8
 F 22
 6



初メ砂ニ水ヲ注キ之レヲ盤上ニ撒シ之ニ盤ヲ上セ四方
濃ナク平滑ニ研スヘシ而後又篩ヒタル密砂ヲ以テ更ニ
研磨スヘシ此砂ヲ其石盤上ニ蒔キ水ヲ以テ浸シ之レニ
他ノ石盤ヲ上セ四方濃ナリ磨キテ上下ノ石粘着スルニ
至ラシメ此ノ如ク石面細密ナル迄之ヲ復ス砂ヲ易ル
時ハ石ヲ上下取替ルヲ宜トス

其後水ヲ以テ石盤ヲ能ク洗ヒ毛拂ヲ以テ盤面ヲ掃除ス
是ハ若盤面ニ小孔アリテ之ニ砂アラハ之ヲ除ク爲ナリ
斯ノ如ク製タルモノハ石版術ヲ以テ之ニ書メ可シ

石版墨ヲ以テ因スヘキ石盤磨法

海浮石ヲ極末シタルヲ篩ヒ是ヲ以テ前法ニ因テ製タル
石盤ヲ磨キテ盤面平滑ナラシム石薄キハ然ルヘカラス
大丸ニ寸半ヲ宜シトス用果テ後ハ之ヲ磨減シ又新ニ之
ニ因テ用ヲナス
石盤ニ因スル書墨ノ成分
黄臘 三十二分 精製脂肪 四分 白色石鹼
二十四分 硝石 一分 松煙 七分
硝石ハ其量七倍ノ水ニ溶解セシム
蠟脂肪共ニ溶解セシメテ後細カニ切斷シタル石鹼ヲ漸
々ニ入レ然ラサレハ石鹼中ニ含タル水液アリテ沸涌ス

レハナリ溶解ヲ速カナラシメニカ為メニ篋ヲ以テ予ヲ
止メス攪和し全ク洋解シタル后ハ攪ルヲ復ニメ其液
暖度ヲ受ルニ不同ナカラシム鍋中ヨリ白色ノ焰氣上昇
セズ火ヨリ下レ別ニ暖メ置タル硝石ノ溶解水ヲ加フ然
ル寸ハ鍋中ノ液衝逆シ孫昇レハ孫液ノ混和ヲ増ス其後
再ニ鍋ヲ火ニ上セ生シタル泡沫ヲ篋ヲ以テ敲キ之ヲ減
少セシム暖度ヲ得テ其液沉降ス又之ヲ火ニ上セ置ノ
鉸端ヲ紅リ燒キ之ヲ鍋中ニ入ルニ其液ニ火燃付ヲ度ト
ス液中ニ煙生スルニ及ニテ火ヲ下レ一三ニトニメ之
ヲ蓋メ煙ヲ消シ松煙ヲ徐々ニ投シ能ク攪セ又火ニ上セ

能ク混和セシメ之ヲ以管形ノモノヲ清造ス此ノ如キ製
法ハ都テ煨煉ヲ要ス
又一法
白色石鹼 四十五分、精製脂肪 六十分、
白蟻 七十五分、ウツリゴム 二十分、
松煙 十五分、
脂肪石鹼蟻ヲ以テ製スルノ前法ノ如ク之自燒セシムル
ト一二時ヲ候フテ細カニ切斷シタルウツリゴムヲ加ヘ其
後松煙ヲ投シ能ク攪セ之ヲ以テ管形ノモノヲ清造シ或
ハ平扁ノ石盤上ニ流シ小カヲ以テ之ヲ長メニ切ル

石版ニ因スル版墨

精製年ノ脂肪 二分、白蠟 二分、

二分、白石鯨 二分、松煙 七十六分、

脂肪蠟ヲ流錫セサル銅鉢ニ投シ木炭火ニ上セ溶解セシ

ム脂肪ヲ自燒セシムルヲ半ニニシトニメ細カニ切斷シ

タル石鯨ヲ投シ篋ヲ以テ能リ攪セ以前投入シタル石鯨

能溶解シタルヲ候フテ又新ニ之ヲ加フ此ノ如クメ石鯨

能リ混和シタル后再ビ自燒セシメ其液減少メ初メ石鯨

ヲ投セサリシ時ト著シノ減スルニ至ルヲ候フテ之ヲ止

之ニラクゴム一塊ヲ一投シ篋ヲ以テ靜ニ攪セ若燭アラ

ハ之ヲ消ス

之ヲ煮ルト二三ミニニトニメ凝結シタルヲ石鯨ヲ以テ

塗り置タルニルム石盤ニ流シ他ノニルム石盤ヲ以

テ之ヲ押扁メ小刀ヲ以テ之ヲ棒ニ切ル

之ヲ用ント欲セハニランスヲ茶碗四杯ノ兩水ニ投シ文

火ヲ以テ溶解セシム毛筆或ハ之ヲ充タル一種ノ銅筆ヲ

以テ書ス墨若シ濃キニ過レハ兩水ヲ加ヘ若淡キ寸ハ適

宜ニ至ル迄之ヲ蒸發セシム

凝墨ヲ以テ石盤ニ因スル

石版ハ諸術中最モ清潔ヲ要スル手術ナリ就中乾墨ヲ以

テ石盤ニ因スルヲ最良トス些少ノ汚物毛髮版上ニ落テ
之ニ指頭觸ルト有寸ハ忽チ班紋ヲ生ヌ著シク之ヲ見ル
トナシト虽尺紙上ニ版スルニ至テ其班紋顕然タリ唾等
脱落スルモ又然リ
盤上ノ塵埃ヲ掃ニハ兔狐ノ足ヲ乾カシタルヲ以テスル
ヲ宜シトス

其後清紙ヲ版上ニ置キ其最端ヲ糊ヲ以テ張付テ何因セ
ント欲スル所ノ紙ヲ直角ニ開キ一方ヲ残メ反折シ其出
現シタル石面ニ書墨ノ凝固シタルヲ以テ因シ必ス石面
ヲ吹下勿レ凝墨ヲ以テ石面ニ因スル其状粗朗ナルヲ見

テ既ニ足レリト思ヘドモ是自ラ誤惑スルナリ因テ務テ
鮮明ナラシムヘシ

墨汁ヲ以テ石盤ニ因スル下
至極平滑ニ研磨シタル石盤ヲ取り鋼筆ヲ以テ因スルニ
ハ時斗巻金ヲ以テ製シタルモノヲ用ニ物俸ヲ赤土ヲ以
テ因シタル后筆ヲ墨汁ニ浸シ以テ模字スルト通常紙上
ニ執筆スルカ如シ毛筆ヲ以テスルモ又異ナルトナシ但
墨汁薄キニ過レハ紙上ニ版スルニ及テサメハダヲ生ヌ
因テ適宜ノ濃汁ヲ以テスヘシ
筆ヲ切ル術能ク鍛煉スルニ非レハ難シ鋼ニテ製シタル

小鏡ヲ以テ之ヲ切ル又筆端ヲ油底テテ磨クヲ宜トス
凝墨ヲ以テ石面ニ因スル其最端ヲ度々切尖スヘシ鏡
ナレハ細因スルニ便ヨリ又鈍ニ比スレハ能ク石面ニ固
着スレハナリ因スルニ若シ着サル如クアラハ利夫ニテ之
ヲ續フヘシ然レ氏之ハ多ク時刻ヲ費サス

彫刻石盤法

硝酸ニ水ヲ合シ水液斗ノニ度ニ至ラシメ但之ハ至テ氣
弱ナルモノニ之ヲ以テ平滑ニ磨研シタル石盤面ニ注キ
直チニ水ヲ以テ石面ヲ淨シゴハニ整女ノ松煙或ハ赤土
ヲ和シタル溶解液ヲ柔ナル海綿ヲ以テ石面ニ塗り乾メ

他色ノモノヲ以テ因シ其上ヲ能鍛タル銅針ヲ以テ彫ル
但シ石面凝固シタルモノヲ穿テ少シク石面ニ痕スルノ
ミニテ深リ彫刻スルニ及ハズ

銅針ハ其形數種ナリ鑿ノ如キアリ彫刀ノ如キ有彫
刺スヘキ者ニ因テ差別アリ若シ粗カラ以テ細因ヲ彫刻
スレハ石面上ノ凝固物脱落シ版スルニ至テ鮮明ナラス
和蘭國ニハ彫力ノ一種實ニ精密奇巧目ヲ驚ス者アリ此
ノ如クメ石面ニ彫刻メ柔ナル海綿ニ亞仁油ヲ浸シ以
テ石面ニ塗シハ凝固シタル護膜脱落シ彫刻シタル如様
朗トナル是ニ墨ヲ注キ摩習スレハ因シタル者鮮明トナ

